

|      |  |    |          |     |          |                    |
|------|--|----|----------|-----|----------|--------------------|
| 教科   | 商業   | 科目 | ソフトウェア活用 | 単位数 | 小学科・学年   | 教科書                |
|      |  |    |          | 4単位 | 情報処理科・2年 | ソフトウェア活用<br>(実教出版) |
| 副教材  | 学習と検定 全商情報処理検定テキスト 1級ビジネス情報部門 (実教出版)<br>全商情報処理検定模擬試験問題集 ビジネス情報部門1級 (実教出版)    |    |          |     |          |                    |
| 学習目標 | 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。 |    |          |     |          |                    |

| 評価の規準・観点  |   |   |
|---|---|---|
| 知識・技術   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
| 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に着けている。                                 | 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。                          | 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験、小テスト</li> <li>実技試験</li> <li>授業プリント 等</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験、小テスト</li> <li>実技試験</li> <li>授業プリント 等</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークの取り組み</li> <li>定期試験、テストなどの振り返り 等</li> </ul> |
| 評価の方法   | 授業における態度、意欲、出欠状況、課題の提出、確認テスト、実技テスト、定期試験等を上記の3観点に基づいて総合的に評価する。                               |   |

| 学習の内容 (特色を含む) |  |    |  |
|---------------|--|----|--|
| 月             |  | 月  |  |
| 4             | 1章 企業活動とソフトウェア活用<br>1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用<br>2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化   | 10 | 3節 手続きの自動化<br>4節 データベースの構造<br>5節 SQLの操作  |
| 5             | 2章 情報通信ネットワークの活用<br>1節 情報通信ネットワークの導入と運用<br>2節 情報資産の保護<br><br><div style="text-align: center;">中間試験</div> | 11 | 5章 業務処理用ソフトウェアの活用  |
| 6             | 3章 表計算ソフトウェアの活用<br>1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析  | 12 | 1節 グループウェアの活用<br>2節 販売管理ソフトウェアの活用<br>3節 給与計算ソフトウェアの活用<br><br><div style="text-align: center;">期末試験</div> |
| 7             | 2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ<br>3節 手続きの自動化<br><br><div style="text-align: center;">期末試験</div>           | 1  | 6章 情報システムの開発   |
| 9             | 4章 データベースソフトウェアの活用<br>1節 ビジネスとデータベース<br>2節 データベースの作成と操作  | 2  | 1節 システム開発の基礎<br>2節 アルゴリズムの基礎<br>3節 情報システムの開発演習   |
|               |  | 3  | <div style="text-align: center;">学年末試験</div>   |

| 担当者からのメッセージ及び特色  |
|--|
| <p>1 毎日の授業における学びが基本です。1時間の授業を大切に、真剣勝負のつもりで授業にのぞんでください。</p> <p>2 その日の授業で課せられた宿題や長期休業中の課題への取り組みは、授業で学んだ内容をしっかり理解できたかを確認できる絶好の機会です。宿題は必ず授業を受けたその日のうちに行ない、分からないところを調べたり、人に聞いたりして確認しよう。</p> <p>3 全商情報処理検定にもチャレンジします。検定試験前に実施する補習には積極的にのぞみ、合格に向けて励もう。</p> <p>4 この授業では、ソフトウェアの操作技術だけでなく、どんな場合にどんなソフトウェアをどのように使うと効率よく課題解決ができるのかも学びます。この力は、日々の生活や仕事の場面でも非常に有用なものとなります。普段から、物事にあたる時よりよく解決するには、どうしたらよいかということ意識すると、様々なアイデアが浮かび、授業にも役立ちます。</p> <p>最後に<br/>「好きこそものの上手なれ」ともいいます。ぜひ興味・関心をもって前向きに学んでいきましょう。</p> |